

# $\chi^2$ 検定

---

岡本正芳



# $\chi^2$ 分布を用いた検定

- \* 適合度検定
- \* 関係性を評価する方法
- \* 独立性検定
- \* 無関係を調査する方法



証明は多項分布によるので省略



# 適合度検定

標本を $k$ 個の階級に分けて、各階級 $i$ に入った標本数を観測度数 $y_i$ (**現実**)とし、その合計を総度数 $n$ とする。各階級 $i$ に入る確率 $p_i$ (**理論**)とすると各階級に入ると期待される期待度数(**理想**)は $np_i$ となる。総度数 $n$ が十分に大きいとき、確率変数

$$x = \sum_{i=1}^k \frac{(y_i - np_i)^2}{np_i}$$

は自由度 $k-1$ の $\chi^2$ 分布に従う。有意水準 $\alpha$ で

$$x > \chi^2(k-1, \alpha) \quad \text{棄却条件}$$

のとき、各階級 $i$ に入る確率は $p_i$ ではない。(理論が破綻)

**理論を標本が保証するのが望み**



# 適合度検定の例

- \* メンデルの遺伝実験（エンドウ豆）
- \* 子葉が黄色の豆を  $n=8023$  個蒔いたところ発芽した子葉は黄色と緑色が 6022:2001 であった。メンデルの遺伝法則 3:1 は成立するかどうか。有意水準 0.05 で検定すると。



# 標本結果の整理

	観測値 $y_i$	理論値 $np_i$	差 $y_i - np_i$
黄色 $i=1$	6022	6017.25	4.75
緑色 $i=2$	2001	2005.75	-4.75
合計	8023	8023	0

\* 確率変数は

$$x = \frac{(y_1 - np_1)^2}{np_1} + \frac{(y_2 - np_2)^2}{np_2} = \frac{4.75^2}{6017.25} + \frac{4.75^2}{2005.75} = 0.015$$



# 結果

\*  $\chi^2$ 分布表より

$$\chi^2(2-1, 0.05) = 3.841$$

\* 大小関係は

$$x = 0.015 < 3.841 = \chi^2(k-1, \alpha)$$

\* 棄却条件は成立せず、メンデルの法則は成立している。



# 独立性検定

仮説 $H_0$ :事象AとBは独立

対立仮説 $H_1$ :AとBは非独立

総度数 $n$ の標本を事象Aに関して $k_a$ 階級に、事象Bに関して $k_b$ 階級に分類する。 $(A_i, B_j)$ 階級に属する観測度数 $y_{ij}$ より確率変数

$$x = \sum_{i=1}^{k_a} \sum_{j=1}^{k_b} \frac{\left( y_{ij} - \frac{y_{i\cdot} y_{\cdot j}}{n} \right)^2}{\frac{y_{i\cdot} y_{\cdot j}}{n}}$$
$$y_{i\cdot} = \sum_{j=1}^{k_b} y_{ij}, \quad y_{\cdot j} = \sum_{i=1}^{k_a} y_{ij}$$

は自由度 $(k_a-1)(k_b-1)$ の $\chi^2$ 分布に従う。有意水準 $\alpha$ で

$$x > \chi^2((k_a-1)(k_b-1), \alpha) \quad \text{棄却条件}$$

のとき、 $H_0$ が棄却され、事象AとBは独立ではない。



# 独立性検定の例

- \* 朝食をとることと疲労の関係
- \* 朝食をとった100人中45人が疲労を感じており、朝食をとっていない400人中140人が疲労を感じていると報告された。この結果から調査。



# 仮説の宣言

- \* 仮説 $H_0$ :朝食をとることと疲労には関連性がない。
- \* 対立仮説 $H_1$ :朝食をとることと疲労には関連性がある。



# 標本結果の整理

B \ A	朝食摂取	朝食非摂取	合計
疲労	45 = $y_{11}$	140 = $y_{21}$	185 = $y_{\bullet 1}$
疲労無	55 = $y_{12}$	260 = $y_{22}$	315 = $y_{\bullet 2}$
合計	100 = $y_{1\bullet}$	400 = $y_{2\bullet}$	500 = $n$

\* 確率変数は

$$x = \frac{\left(y_{11} - \frac{y_{1\bullet}y_{\bullet 1}}{n}\right)^2}{\frac{y_{1\bullet}y_{\bullet 1}}{n}} + \frac{\left(y_{12} - \frac{y_{1\bullet}y_{\bullet 2}}{n}\right)^2}{\frac{y_{1\bullet}y_{\bullet 2}}{n}} + \frac{\left(y_{21} - \frac{y_{2\bullet}y_{\bullet 1}}{n}\right)^2}{\frac{y_{2\bullet}y_{\bullet 1}}{n}} + \frac{\left(y_{22} - \frac{y_{2\bullet}y_{\bullet 2}}{n}\right)^2}{\frac{y_{2\bullet}y_{\bullet 2}}{n}}$$



# 確率変数の計算

$$\begin{aligned}x &= \frac{\left(y_{11} - \frac{y_{1\cdot}y_{\cdot 1}}{n}\right)^2}{\frac{y_{1\cdot}y_{\cdot 1}}{n}} + \frac{\left(y_{12} - \frac{y_{1\cdot}y_{\cdot 2}}{n}\right)^2}{\frac{y_{1\cdot}y_{\cdot 2}}{n}} + \frac{\left(y_{21} - \frac{y_{2\cdot}y_{\cdot 1}}{n}\right)^2}{\frac{y_{2\cdot}y_{\cdot 1}}{n}} + \frac{\left(y_{22} - \frac{y_{2\cdot}y_{\cdot 2}}{n}\right)^2}{\frac{y_{2\cdot}y_{\cdot 2}}{n}} \\&= \frac{\left(45 - \frac{100 \cdot 185}{500}\right)^2}{\frac{100 \cdot 185}{500}} + \frac{\left(55 - \frac{100 \cdot 315}{500}\right)^2}{\frac{100 \cdot 315}{500}} + \frac{\left(140 - \frac{400 \cdot 185}{500}\right)^2}{\frac{400 \cdot 185}{500}} + \frac{\left(260 - \frac{400 \cdot 315}{500}\right)^2}{\frac{400 \cdot 315}{500}} \\&= \frac{(45 - 37)^2}{37} + \frac{(55 - 63)^2}{63} + \frac{(140 - 148)^2}{148} + \frac{(260 - 252)^2}{252} \\&= \frac{8^2}{37} + \frac{8^2}{63} + \frac{8^2}{148} + \frac{8^2}{252} = 3.432\end{aligned}$$



# 結果

\*  $\chi^2$ 分布表より

$$\chi^2((2-1)(2-1), 0.05) = 3.841$$

\* 大小関係は

$$x = 3.432 < 3.841 = \chi^2(k-1, \alpha)$$

\*  $H_0$ が棄却されず、朝食をとるかどうかと疲労には繋がりはあるとは言えない。